

(12) 沖縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は堅調に増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)。

前回からの主要変更点

	前回(平成30年8月)	今回(平成30年11月)	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	↓

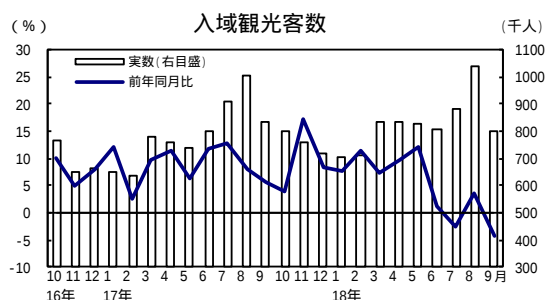
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客について、7月は、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好であったものの、台風の影響による航空路線の欠航があったこと等から、前年を下回った。8月は、台風の影響が懸念されたものの、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好であったこと等から、前年を上回った。また9月は、敬老の日と秋分の日連休や大型音楽イベントの開催があったものの、関西国際空港の一時閉鎖や台風の影響による航空路線の欠航があったこと等から、前年を下回った。

外国客については、7月は、台風の影響から航空路線の欠航や、前年同月よりクルーズ船の寄港回数が減少したこと等から、前年を下回った。8月は、台風の影響が懸念されたものの、夏休みシーズンによる旅行需要の高まりに加え、前年同月より航空路線の拡充があったこと等から、前年を上回った。また9月は、秋夕連休や中秋節があったものの、台風の影響による航空路線の欠航があったこと等から、前年を下回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を下回っている。



入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

	2018年1-3月	4-6月	7-9月	2018年9月
入域観光客数	2,253	2,474	2,724	801.5
(前年比)	8.9	7.6	▲0.9	▲4.3
ホテル稼働率	80.5	79.2	85.2	84.4
(前年差)	▲1.0	▲0.9	▲2.6	▲3.9

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

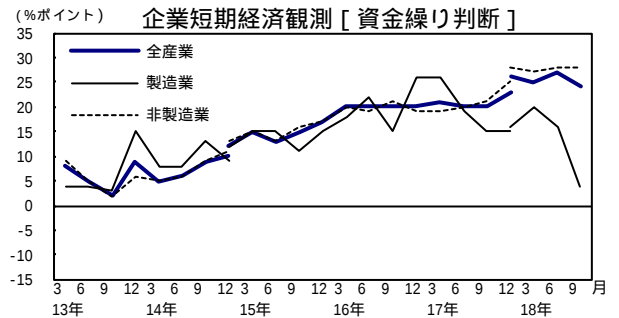
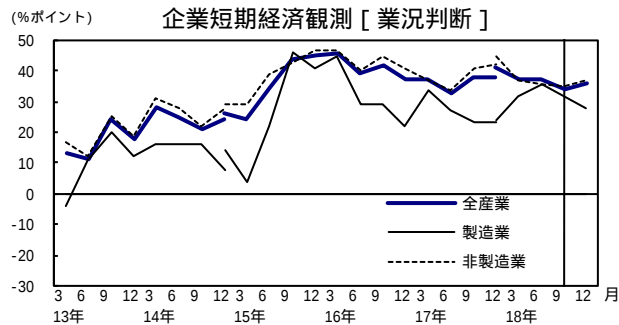
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

(12) 沖縄

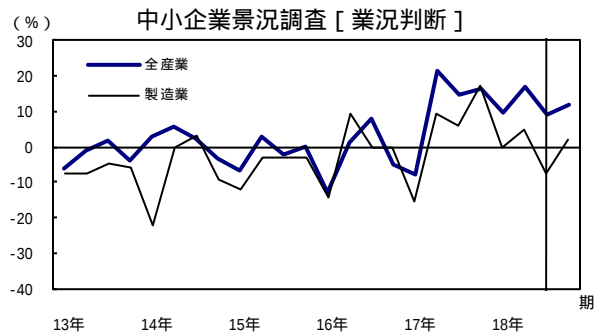
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2018年12月は予測。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

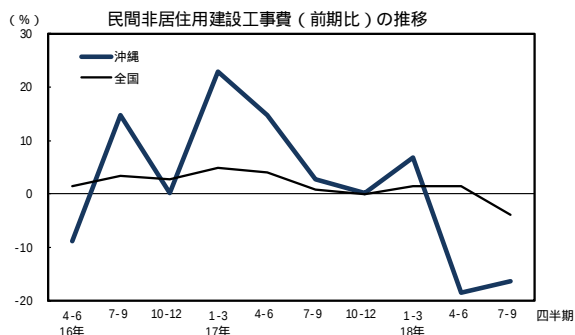


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2018年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「公共向け出荷は前年比減、民間向けは前年比増、全体では横ばいである(窯業・土石製品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	2017年度実績	2018年度計画
全産業	52.3	1.7(▲0.2)
製造業	13.9	36.9(5.9)
非製造業	59.4	▲2.3(▲1.1)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

(備考)1. 季節調整値。

2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は堅調に増加している。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

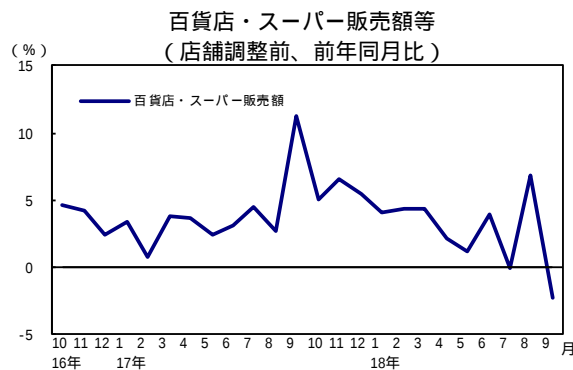
7月は前月比0.8%減、8月は同1.0%増、9月は同0.4%減となった。

百貨店・スーパー販売額

7月は、台風や前年より気温が低く推移した影響で、食料品や衣料品の動きが鈍く前年を下回った。8月は、食料品が青果やオーダブル、寿司など旧盆商材を中心に伸長したこと等から前年を上回った。9月は、台風24号接近による臨時休業の影響を受けたほか、食料品は旧盆の月ずれで旧盆商材売上などが減少したことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（10月）[家計動向関連（現状）]

「夏場に台風や地震等で落ち込んでいた分かもしれないが、ホテルパック等申込みの締切間際でも旅行の問合せが多い（旅行代理店）」などの回答がみられた。



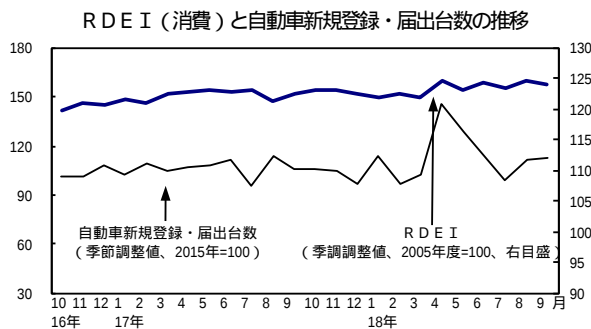
	2018年7-9月	2018年7月	8月	9月
RDEI（消費*1）	▲0.0	▲0.8	1.0	▲0.4
百貨店・スーパー(*2)	1.6	▲0.1	6.9	▲2.3
コンビニ(*2)	3.3	1.4	2.8	5.9
乗用車(*3)	2.8	2.0	0.1	6.6
（季節調整値）(*3)	▲17.0	▲13.4	12.9	1.3

（備考）1．季節調整済前期(月)比（％）

2．前年同期(月)比（％）

百貨店・スーパーは経済産業省調べ（店舗調整前）

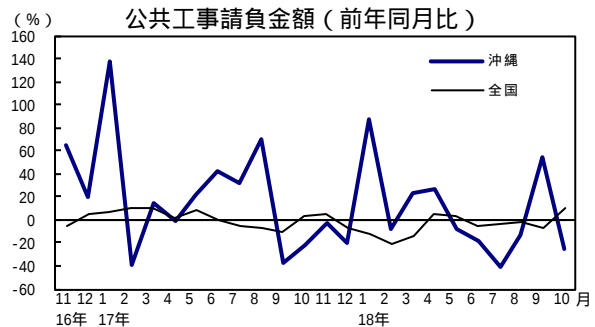
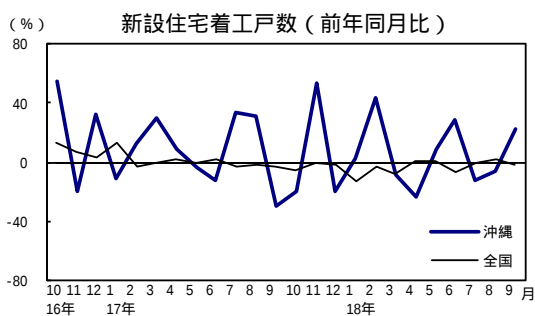
3．乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比（％）)



(2) 住宅建設は前年に比べておおむね横ばいとなっている。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は2018年度累計でみると前年度を下回っている。

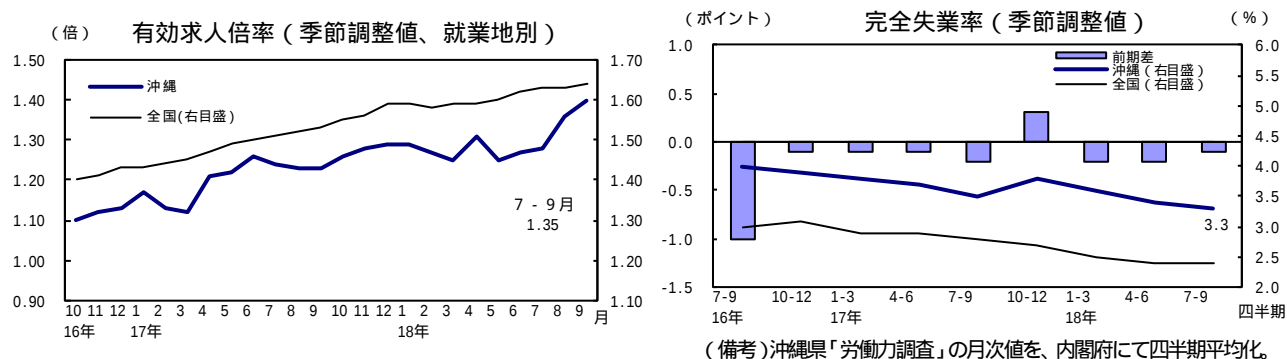


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

「求人数は引き続き多く、景気の良い状態が続いている (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	2017年 10-12月	2018年 1-3月	4-6月	7-9月	2018年10月
倒産件数	16	12	14	11	3
(前年比)	77.8	▲40.0	75.0	57.1	▲25.0
負債総額	25	16	31	71	6
(前年比)	98.2	▲41.4	429.8	1290.9	97.1

